

新型コロナウイルスについて

コロナウイルスは風邪のウイルスですが、新型コロナウイルスは、全く別のものと考えられます。なぜなら、このウイルスはサーズと同じベータコロナウイルスでありながら、免疫細胞を破壊し靴底で 5 日間生存するなど強い生命力を持っているからです。WHO は 3 月 17 日、イブプロフェン（ロキソニンなど）が COVID-19 の重症化の原因になると言いましたが、3 月 20 日には前言を撤回するなど薬品会社への忖度を感じる方々もいるのではないのでしょうか。また、WHO のテドロス事務局長の発言が「中国寄り」なのは、彼がエチオピアの元外務大臣であり、エチオピアが中国から 2 兆 6600 億円の投資を受けたことを考慮すれば、当然の忖度と考えざるを得ません。今我々が、自分自身と大切な仲間を守る為に最も重要なことは、外国や利権団体に忖度しない真の情報を得ることとそれを共有することなのではないのでしょうか。以下に忖度のない情報を記しますので、ご笑覧いただければ幸いです。

- 1 サーズウイルスもマーズウイルスも コロナウイルスの新型である
- 2 COVID-19 のウイルスには L（ロイシン）型・S（セリン）型・Y 型があり ACE2・フーリン・GRP78 を受容体として利用し、細胞と結合する事ができる（感染力が強い理由）
- 3 武漢肺炎は ARDS だが、間質性肺炎になると急性増悪の可能性が高まる
- 4 ビタミン D 欠乏症が COVID-19 を重症化させる可能性が高い
- 5 1981 出版の「闇の目」において、米の作家ディーン・クーンツは生物兵器の名称を「武漢-400」と記している
- 6 2005 年、米 CIA は「2025 年までの世界の傾向」において「適切な治療法が存在せず、伝染性が高く毒性の強いヒト呼吸器疾患の出現が、世界的なパンデミックを引き起こす可能性がある」と発表
- 7 2010 年 6 月 16 日、物理学者ビル・ライアンは「2020 年頃中国でインフルエンザのような生物兵器が使われる」とユーチューブで発表
- 8 2010 年、カナダ国立微生物研究所からエボラの研究資料が中国に流出
- 9 2012 年 3 月、米国防総省はアビガン（T-705）を「生物テロ対策薬剤」に指定し、8 月にエボラの治療薬の候補として発表
- 10 2015 年、中国はフランスの協力を得て中国科学院武漢病毒（ウイルス）研究所に中国初の BSL4（P4）実験室を完成させる
- 11 2017 年 2 月、ネイチャー誌は、「サーズが北京ウイルス研究所から流出したように、武漢病毒研究所からウイルスが流出するリスクがある」と発表
- 12 2018 年 1 月 19 日、米外交官が米政府に対し「コウモリのコロナウイルス研究をしている武漢病毒研究所の安全性が不十分である」と警告

- 13 2019年10月、武漢で軍人運動会があり米軍も参加した
(このとき武漢国際空港で対生物戦争緊急訓練があった)
- 14 ハーバード大学化学生物学部長のチャールズ・リバー博士は、「21種類の生物学的研究」を中国に密輸し12月10日にボストンで逮捕された
- 15 1月25日、習近平が武漢に派遣した陳微(チェンウェイ)博士は生物兵器の第一人者であり、サーズ・エボラ・炭疽菌の専門家である
- 16 2月1日、インド工科大の医療研究チームは「新型コロナウイルスにHIVのタンパク質が挿入されていることを発見した」と発表
- 17 2月3日、1989年の生物兵器禁止条約を起草したフランシスボイル博士は「新型コロナウイルスは攻撃的生物兵器である」と発表
- 18 2月6日、華南理工大の肖波涛(シャオボウタオ)教授は「新型コロナウイルスは武漢ウイルス研究所又は武漢疾病予防管理センター(海鮮市場から280m)から流出した可能性が高い」と発表後行方不明
- 19 2月21日、国立国際医療研究所センターでは、アビガン(抗インフルエンザ薬)・カレトラ(抗HIV薬)に加えてレムデシビル(抗エボラ薬)の効果を検証し始めた
- 20 3月12日、中国外務省の趙立堅副報道局長は「新型コロナウイルスは米軍が持ち込んだ」とツイートした
- 21 4月17日、HIVの発見でノーベル賞を受賞したリュック・モンタニエ博士は「新型コロナウイルスはエイズウイルスを人為的に変えたものに見える」とフランスのテレビ番組で発表
- 22 4月12日、英デイリーメールと米FOXニュースは、「米国立衛生研究所が武漢ウイルス研究所(海鮮市場から35Kの所と12Kの所に2か所ある)に対し、キクガシラコウモリのウイルス研究に370万ドル、マウスの脳にウイルスを注入する研究に340万ドルの支援をしていた」と発表
- 23 4月18日、米トランプ大統領は、米による武漢研究所の調査を中国が拒否したことから、中国が意図的にパンデミックを引き起こしたのではないかとの疑問を呈し、「故意であれば、報いを受ける」と発表